

令和 7 年度香美市保育園運営委員会 会議録要旨

開催日：令和 8 年 1 月 27 日（火）14：00～16：00

場 所：本庁舎 5 階委員会 3

1. 開会
2. 委員・事務局紹介及び出席者確認

出席委員数：12 名（全委員 15 名中）

司会：前田教育振興課長

議長：浜地委員

事務局：教育委員会事務局 教育次長 中山、教育振興課 幼保支援班長 中島

出席委員

浜地委員（教育研究所長）

竹内委員（高知大学）

近藤委員（土佐山田幼稚園長）

橋詰委員（山田小学校長）

森田委員（大宮小学校長）

矢野委員（あけぼの保育園保護者会代表）

笹岡委員（美良布保育園長）

大石委員（大栃保育園副園長）

堀内委員（新改保育園主任）

公文委員（片地保育園長）

黒原委員（あけぼの保育園副園長）

原 委員（なかよし保育園長）

（教育振興課長）設置要綱第 6 条の規定により、委員の過半数に達しているので会議の成立を宣言。

3、事務局より開催経過説明。

皆様ご存じの通り、本市におきましては、昨年度から、教育長が不在という状況が続いておりました。これは、市長から 2 度にわたり議会に指名提案された教育長議案が、議会の同意に至らなかったためでございます。

教育委員会としましては、新たな教育長のリーダーシップの下で、今後の保育行政全般に関する新体制を構築し、その上で本運営委員会も新たな体制でスタートを切るのが望ましいと考えておりました。そのため、これまで委員会の開催を見送らせていただいております。委員の皆様には、この間、ご理解とご心配をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

しかしながら、運営委員会が開催されていない間も、教育委員会教育振興課としては次の取り組みを進めておりましたことをご報告いたします。

保護者連合会からの保育所に関する要望を継続して受領し、改善可能な事項については随時対応を進めております。

また、保育士の職場環境に関する匿名アンケートを実施し、その結果を基に、より働きやすい環境づくりのための改善に現在も取り組んでおります。

そして、ついに一昨日、1年7ヶ月ぶりに教育長が決定し、新たな体制で保育行政を推進できる運びとなりました。これを受け、今後の保育所運営について改めて皆様のご意見を伺い、議論を深める場として、本委員会を進めていきたいと思っております。

委員の皆様へのこれまでのご理解とご協力に感謝いたします。

4. 教育次長挨拶:

委員の皆様への感謝と、多忙な中での出席へのお礼を述べた。

保育園運営委員会が約2年ぶりの開催となったことについて説明。

新しい教育長の就任が待たれていたが、教育長不在の長期化により委員会開催が遅れたことへの理解と謝罪を述べた。

保育は児童福祉法に基づく児童福祉施設であり、本来は福祉関係部署の所管だが、本市では地方自治法の規定に基づき教育委員会の職員が事務を執行していることを説明。

第2期香美市教育振興基本計画において、探究的に学び社会を生き抜く力を育むことや、就学前から教育の充実を重点施策としていることを強調。

本委員会が、子どもたちの健やかな成長を支える保育園運営に役立つ貴重な機会となるよう、委員からの活発な意見を求めた。

5. 議 事

(1) 委員長の選出について

選出方法: 香美市保育園運営委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、委員の互選により選出。

候補: 事務局案として浜地委員を推薦。

結果: 異議なしとして、浜地委員が委員長に選出された。

浜地委員長より挨拶。

(2) 事務局からの報告事項

1. 保護者の意見収集方法の見直しについて

・従来の取り組み（令和6年度まで）：保護者連合会からの要望を市役所が受け付け、保育園運営委員会で対応可能なものを解決してきた。

・変更点（令和7年度から）：保護者連合会の要望調査がなくなることを受け、市が新たに導入したICT化されたアンケート機能を活用して、保護者からの意見収集を継続する。

特徴: 保護者または市がアンケート機能を通じて意見を収集し、対応する。

利点: 紙媒体よりも確実に意見が届きやすい。

○委員からの意見:

スマートフォンで手軽に回答できる点は良い。

若手職員も積極的に参加し、多様な意見が出やすいと期待。

一部のネガティブな意見に偏り、改善すべき点が見落とされないよう、意見の精査が必要。
職員が傷つくような強い表現の意見がある可能性も考慮する必要がある。

2. 保育職員の職場環境アンケートの継続実施について

目的: 保育職員の職場環境改善および保育士の質向上のため。

実施概要: 令和6年度から匿名アンケートを実施。

調査項目: 業務負担、ICT活用、職場コミュニケーション、人材育成など。

実施期間: 今年度は1月8日から1月27日まで。

回答方法: 個人スマートフォンのQRコードを読み取る形式で匿名回答。

今後の活用:

職員間で結果を共有し、現場主導で職場環境改善を目指す。

委員会には、結果を踏まえた改善の方向性や必要な行政支援について改めて報告・相談する
事を検討しています。

○委員からの意見:

- ・QRコードでの回答はやりやすい。
- ・職員の年齢や立場、雇用形態によって悩みや困難さが異なるため、アンケート結果を多角的に分析し、改善のきっかけとすべき。
- ・ネガティブな意見に偏りがちであるため、一部の意見に振り回されず、全体的な改善につなげる姿勢が重要。
- ・職員が意欲を失わないよう、意見の受け止め方や対応にも配慮が必要。
- ・アンケートの設問で、「良かった点」についても積極的に尋ねることで、ポジティブな側面も把握し、それを伸ばす方向性も検討すべき。

3. 保幼小連携カリキュラムの作成状況について

目的: 幼稚園・保育園から小学校へのスムーズな移行を目指す。

経緯: 外部講師を招き、橋渡しプログラムの一環として、公立保育園で新しいカリキュラムを作成中。

現状: 今年度末に完成予定。

進捗: 昨年度からプログラムの作成を開始し、公立保育園の副園長・主任が参加して協議を行った。

5歳児の年間指導計画を基に、保育指針の53項目と10の姿を整合させる作業を進めている。

活動案を作成し、実際に現場で試行・検証を行っている。

改善を重ねながら、小学校教員にも分かりやすいものになるよう作成を進めている。

どの保育園でも活用できるような汎用性の高いカリキュラムを目指している。

○委員からの意見:

- ・カリキュラムが作成されていることは認識しているが、それがどのように現場で実行されていくのか、進捗状況の共有が不足していると感じる。
- ・共通認識を持つことで、職場での振り返りや保育内容の見直しにつながり、良いきっかけとなることを期待。
- ・実際にはモデル事業で実践してみるなど、現場での検証が進められている。

- ・新教育課程であるスタートカリキュラムは保幼小連携の重要な要であり、今後の推進に期待が寄せられる。
- ・コロナ禍で交流が減少し、子どもの発達状況や教員の負担にも変化が見られる中で、連携カリキュラムは重要な意味を持つ。
- ・カリキュラムを紙ベースで作成するだけでなく、小学校との実際の交流を増やすなど、具体的な実践が必要。
- ・3月末までの完成は少々厳しいスケジュールだと感じている。

(3) 協議事項

1. 本委員会の今後のあり方について

(委員長)

新しい教育長の就任と新しい行政体制の下で本委員会が再開され、保護者や保育職員からの意見収集方法が見直しも進んでおります。この様な状況も踏まえ、香美市の保育所運営について、より効果的に必要な事項を審議し、意見を述べるために、本委員会の今後の運営方法、議題設定、情報共有の在り方などについて、委員の皆様からのご意見を伺い、協議して参りたいと存じます。本協議の主な論点は、お手元のアジェンダにも記載のとおり以下の4点でございますので、ご意見をお願いします。

議論の主な論点:

1. 若手・中堅職員の離職と人材確保について:

○委員の意見:

- ・若手職員の離職は社会的な課題であり、保育園も例外ではない。
業務量の多さ、責任の重さ、多様な業務内容（安全管理、危機管理、アレルギー対応、薬剤管理、気候変動対策など）が重くのしかかっている。
- ・かつては職員同士がお互いの得意分野を活かし、協力し合うことで保育が成り立っていたが、近年は職員数の減少や働き方の多様化により、相互支援が難しくなっている。
- ・一人ひとりの職員のスキルに大きく依存する状況。
- ・ICT導入は業務効率化の期待がある一方で、慣れない職員にとっては新たな負担となる可能性もある。
- ・職員は常に「この子をどう守れるか」という責任感を抱いており、怪我をさせてしまった時の精神的負担は大きい。
- ・理想の保育と現実とのギャップに苦しむ職員も多い。個々の園児に合わせた丁寧な保育をしたいが、人員不足から十分に対応できないジレンマがある。
- ・ワークライフバランスの重要性が高まる中で、プライベートな時間が取りにくいことや給与水準の問題や離職に繋がっている。
- ・ポジティブな要素(子どもの可愛さ、保育の楽しさ)もあるため、それらを共有し、働きがいや育むことで離職を防ぎたい。ただし、「ハッピーな離職」も存在するため、一概にネガティブな理由だけではない。
- ・保護者も共働きで時間に余裕がない家庭(愛情不足・子どもの素地が出来ていない)が多く、保育園の職員もまた激務を強いられている。

- ・怪我をさせた際の保護者対応や、事務作業の増加も負担が大きい。
- ・感情労働の側面が強く、自身の精神状態をコントロールする難しさもある。
- ・若手職員の「この仕事は一生続けるもの」という意識が薄れてきている。
「辞めたら良い」という選択肢が容易になったことで、離職につながる。
- ・給与、プライベートの時間の確保など、待遇面での不満が若手職員の離職を促している。
- ・園児にケガをさせてしまった時の精神的負担は大きく、その責任を一人で背負いがちになる。
- ・理想の保育像と現実の業務量との間で葛藤を抱えている。
「辛い仕事だが、子どもは可愛い」という気持ちと、それだけでは乗り越えられない現実がある。
- ・県外から来た職員は地域とのつながりが希薄で孤独を感じやすい。
- ・新卒で「先生」として放り込まれる状況で、精神的に追い詰められる若手が多い。
離職率が高い職場は採用にも悪影響を及ぼす。
- ・配置基準が厳しく、正規職員が会計年度の1/2以下でベテラン会計年度も従えないといけないというプレッシャーもある。
- ・会計年度の給料を含めて待遇が良くなり、正規職員への魅力が感じられなくなっている。
- ・若手同士の横のつながりが必要。
- ・小学校も保育園と同様に、教員の休職や離職が常態化し、欠員補充で日々の授業を回している状況。
- ・教員であればできて当たり前とされていた業務が、多岐にわたり複雑化している。
- ・若手教員は理想と現実のギャップに直面し、精神的な負担を感じやすい。
- ・かつては教員同士で協力し、互いの業務を補い合う文化があったが、今はそれも難しい。
- ・個々の教員が一人で抱え込む状況に陥りやすい。
- ・保護者からの意見や苦情にも、学校として組織で対応するよう努めている。
- ・働き方改革により勤務時間を厳守するようになっているが、実際には時間外業務も多く、持ち帰り仕事も発生している。
- ・「子どもを預かる」という責任の重さは、小学校でも同様に感じている。
- ・採用される教員は県外出身者が多く、縁もゆかりもない土地で、サポート体制が不十分な中で働くことになっている。
- ・県外から赴任する教員が地域に馴染むための支援が必要。
- ・業務量責任に対して、全国的に給料が少ないので離職となる傾向。

○教育次長からのコメント:

- ・人材確保の難しさ、若手職員の離職の背景にある様々な要因について、深く理解した。
- ・特に、県外から赴任する教員のサポート体制や、地域とのつながりの希薄さといった課題は、早急に取り組むべき事項であると認識している。
- ・若手職員の「辞めること」に対する考え方が変化している点も踏まえる必要がある。
- ・業務が多様化し、専門性が細分化される中で、個々の職員が専門性を活かし、連携

し合える仕組みづくりが重要。

- ・ICT の導入は業務改善の一助となることを期待するが、新たな負担とならないよう配慮が必要。
- ・今後、これらの課題に対して、具体的な施策を検討し、実行していく。

2. ICT 活用や保護者・職員の意見収集について:

○委員からの意見:

- ・ICT を活用したアンケートは手軽に意見を収集できる有効なツール。
- ・ネガティブな意見に偏りがちなため、意見の精査やポジティブな意見の抽出も重要。
- ・職員が傷つくような強い表現の意見への対応も考慮すべき。
- ・アンケート結果を職員間で共有し、建設的な議論を行う場を設けるべき。
- ・ICT を積極的に活用し、効率的な意見収集と分析を進めるべき。
- ・意見収集は継続的に行い、PDCA サイクルを回しながら改善していく姿勢が求められる。
- ・意見を吸い上げるだけでなく、それに対するフィードバックも重要。
- ・アンケート結果だけでなく、現場でのヒアリングや面談も併用することで、より多角的な情報を得られる。

3. 委員会の開催頻度や効果的な会議運営の方法について:

○委員からの意見:

- ・現在の開催頻度は年間 2～3 回程度。

⇒議題により年 2.3 回程度によって開催する事に。

意見としては、オンライン会議の導入や、緊急時の情報共有・意見交換の機会の確保が挙げられた。

- ・小学校の学校運営協議会では年間 6～7 回開催されており、オンラインも活用している事例がある。
- ・園によって ICT 環境が異なるため、タブレットなどの整備も今後の課題。
- ・議題を事前に共有し、効率的な議論ができるよう工夫すべき。
- ・委員からの活発な意見を促すため、意見を出しやすい雰囲気づくりも重要。
- ・議論の内容を分かりやすくまとめ、関係者にフィードバックする仕組みも必要。
- ・事務局と委員会の連携を強化し、円滑な運営を図るべき。

☆総括:

- ・本委員会は、香美市の保育行政の質の向上を目指す上で非常に重要な役割を担っている。
- ・若手・中堅職員の離職問題は深刻であり、早急な対策が必要。
- ・ICT を活用した意見収集は効率的だが、その結果の活用方法には慎重な検討が求められる。
- ・委員会の開催方法や運営についても、より効果的な形を模索していく必要がある。
- ・今後も、子どもたちの健やかな成長を最優先に考え、関係機関が連携し、課題解決に向けて取り組んでいくことが確認された。

6. その他

園と学校の連携強化について

○現状認識:

- ・保幼小連携の重要性は認識されているものの、コロナ禍で交流が減少し、再構築が課題となっている。
- ・連携強化は、子どものスムーズな移行支援だけでなく、教職員の相互理解や専門性向上にも繋がる。
- ・保幼小連携カリキュラムの作成を通じて、各園・学校の教育内容の共有が進みつつある。

○委員からの意見:

交流の機会創出:

- ・園児が小学校を訪問するだけでなく、小学校の児童が園を訪問する機会を増やす。
- ・園と学校の教職員が、互いの現場を視察したり、研修会を共同で開催したりする。
- ・地域住民を巻き込んだ合同イベントや交流会を企画する。

情報共有の仕組み化:

- ・保幼小連携カリキュラムを基に、各園・学校での取り組み状況や課題を定期的に共有する場を設ける。
- ・子どもの発達状況に関する情報共有を、個人情報保護に配慮しつつ、よりスムーズに行える仕組みを検討する。
- ・ICTを活用した情報共有システムの導入も有効。

連携の具体例:

- ・保育園と小学校の教員が、合同で子どもの様子を観察し、意見交換を行う。
- ・小学校の教員が、保育園の行事に参加したり、園児と交流したりする。
- ・保育園の職員が、小学校の授業を見学したり、児童の成長を共有したりする。
- ・小学校の入学説明会などで、保育園での生活や学びの様子を紹介する。

課題:

- ・教職員の多忙化により、連携のための時間確保が難しい。
- ・各園・学校の教育方針や文化の違いを理解し、尊重する必要がある。
- ・個人情報の取り扱いに関するルールを明確にする。
- ・連携を推進するための具体的な予算措置や人員配置が必要。

○教育次長からのコメント:

- ・保幼小連携の重要性は言うまでもなく、今後の保育・教育行政の大きな柱である。
- ・コロナ禍で失われた交流の機会を再構築し、さらに発展させていくための具体的なアイデアを多数いただいた。
- ・教職員の負担軽減を図りつつ、効果的な連携を進めるための工夫を凝らしていく必要がある。
- ・保幼小連携カリキュラムの活用や、ICTによる情報共有も検討し、より質の高い連携を目指してまいりたい。

(3) 質疑応答と今後の課題

○全体を通しての質疑応答:

- ・教職員の多忙化は深刻で、長時間労働が常態化している。
- ・業務を効率化するために ICT を活用しているが、それ自体が新たな業務となる場合もある。
- ・子どもたちの安全確保と、職員の心の健康を守るバランスが難しい。
- ・離職問題の解決には、地域全体で保育士・教員を支える意識が必要。
- ・委員会が出された意見を行政がどのように受け止め、具体的に何をするのか、明確なフィードバックが求められる。

5. 閉会の挨拶

○中山教育次長より:

- ・本日の会議は、私自身も多くのことを学ばせていただいた大変有意義な時間であった。
- ・特に、現場の皆様が抱える課題や、それに対する熱い思いを直接聞くことができたのは大きな収穫であった。
- ・いただいた貴重なご意見は、単に情報として聞くだけではなく、今後の香美市の保育行政を具体的に動かしていくための羅針盤として活用させていただく。
- ・委員会が出された課題や提言に対して、一つ一つ真摯に向き合い、解決に向けて全力で取り組んでいくことをお約束する。
- ・今後も、定期的な情報共有や意見交換の場を設け、皆様との連携を密にしながら、より良い保育・教育環境の実現を目指してまいりたい。本日は、本当にありがとうございました。